

# 福岡県家畜衛生だより

発行者 公益社団法人福岡県畜産協会  
福岡市博多区千代4丁目1-27  
電話 092-641-8714 FAX 092-642-1276



熊本県南関町 HPAI 発生時、みやま市消毒ポイントでの車両消毒の様子 (R3. 12. 3~21)

## 目次

- 福岡県における監視伝染病の発生状況について . . . . . P1
- 飼養衛生管理マニュアルの作成はお済みですか . . . . . P2
- 熊本県で発生した高病原性鳥インフルエンザへの本県の対応 . . . . . P3
- 令和3年度福岡県高病原性鳥インフルエンザ防疫演習について . . . . . P4
- 今シーズンの高病原性鳥インフルエンザ発生状況 . . . . . P6
- 令和3年度牛のアルボウイルス感染症血清サーベイランス結果 . . . . . P8
- 豚熱及びアフリカ豚熱の発生状況 . . . . . P9
- 外国人従事者等を雇用している畜産農家における注意事項について . . . . . P11
- 第3回福岡県肉用種牛共進会の開催実績 . . . . . P12
- 令和3年度の福岡県家畜共済事業実績(1月末現在) . . . . . P13
- 酪農情勢について . . . . . P14
- 令和3年度家畜保健衛生業績発表会について . . . . . P15

## 福岡県における監視伝染病の発生状況について

福岡県農林水産部畜産課衛生係

福岡県における令和3年（1月～12月）の監視伝染病（家畜伝染病及び届出伝染病）は、11疾病が確認され、計405頭羽群で発生しました（下表参照）。

家畜伝染病では、牛のヨーネ病が1戸1頭で発生しました。ヨーネ病は平成27年度から継続して発生しています。

届出伝染病では、牛伝染性鼻気管炎が5年ぶりに発生しました。また、牛伝染性リンパ腫が農場だけでなく、と畜場においても多数

発生しています。

豚では、サルモネラ症及び豚丹毒がと畜場で発生しました。

鶏では、伝染性ファブリキウス嚢病が4戸177羽で発生しました。また、鶏痘が6年ぶりに発生しました。

いずれの疾病に対しても飼養衛生管理基準の遵守や適切なワクチン接種等により発生を予防することが重要となりますので、防疫対策の徹底をお願いします。

### ○平成28年～令和3年の監視伝染病の発生状況（暦年集計）

（単位：頭、羽、群）

病名		畜種	H28	H29	H30	R1	R2	R3
家畜伝染病	高病原性鳥インフルエンザ	鶏	0	0	0	0	10	0
	ヨーネ病	牛	3	5	2	1	2	1
	伝達性海綿状脳症	羊	1	0	0	0	0	0
	腐蛆病	蜜蜂	1	0	0	0	0	0
届出伝染病	牛ウイルス性下痢	牛	7	1	3	5	1	0
	牛伝染性鼻気管炎	牛	4	0	0	0	0	4
	牛伝染性リンパ腫	牛	109	103	118	145	193	175
	サルモネラ症	牛	4	0	1	7	0	0
		豚	3	0	3	6	7	7
	破傷風	牛	2	1	1	0	0	2
	豚繁殖・呼吸障害症候群	豚	2	0	0	0	0	0
	豚丹毒	豚	98	47	16	71	117	8
	豚赤痢	豚	4	0	0	1	0	0
	鶏痘	鶏	0	0	0	0	0	16
	マレック病	鶏	31	0	0	0	0	0
	鶏伝染性気管支炎	鶏	0	31	0	0	0	0
	伝染性ファブリキウス嚢病	鶏	0	249	0	12	278	177
	鳥マイコプラズマ症	鶏	0	0	0	0	1	0
	ロイコチトゾーン症	鶏	0	0	10	0	12	3
	アカリダニ症	蜜蜂	0	4	1	0	3	9
レプトスピラ症	犬	5	2	5	3	1	3	

## ～飼養衛生管理マニュアルの作成はお済みですか～

福岡県筑後家畜保健衛生所

令和2年10月に改正された飼養衛生管理基準により、全ての家畜の所有者に、飼養衛生管理マニュアルの作成が義務づけられました。このマニュアルは、農場へ病気を「持ち込まない」「拡げない」「持ち出さない」ことを目的に、各農場で実施している衛生対策に関するルールや手順を文章や図等を使って明確にしたものです。これを農場の従事者や外部の関係者が遵守することで、より徹底した衛生対策を実践できるようになります。

内容については、以下の10項目について家畜保健衛生所や管理獣医師等の専門家の意見を反映させてマニュアルを作成してください。

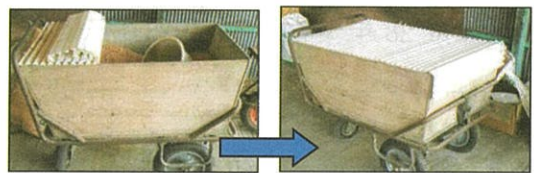
- ① 従事者が当該農場以外で行う動物の飼養及び狩猟における禁止事項
- ② 海外渡航時及び帰国後の注意事項  
(例) 原則、口蹄疫等が発生している地域へ渡航しない。渡航先では、畜産関係施設に立ち寄らない等。
- ③ 海外からの肉製品持込み禁止(郵便物による持込み含む。)に関する注意喚起
- ④ 農場内への不適切な物品の持込みの禁止項目
- ⑤ 可能な限り、工具、機材等を農場内へ持ち込まないための取組



- ⑥ 持ち込む工具、機材、食品等の取扱い  
(例) 他の畜産関係施設等で使用した物品や海外で使用した衣服等は持ち込まない。やむを得ず持ち込む場合は、作成したマニュアルに従う。

- ⑦ 愛玩動物の衛生管理区域内で飼育の禁止

- ⑧ 野生動物の衛生管理区域内への侵入防止



- (例) 野生動物の誘引を防止するために、作業後は給餌用台車に蓋をする。

- ⑨ 農場における防疫のための更衣  
(例) 入場時及び退場時等の動作フロー(実施すべきこと)を明確にする。
- ⑩ 手指、衣服、靴、物品、車両、施設等の洗浄及び消毒に関する具体的な方法、消毒薬の種類、作用時間及び乾燥時間等。及び緊急連絡網の作成  
(例) 車両の消毒方法、手指の洗浄・消毒方法及び衣服・長靴・手袋の着用方法について作業手順を作成。飼養家畜に異常が確認された時の緊急連絡網を作成する。  
不明な点がございましたら、最寄りの家畜保健衛生所まで連絡をお願いします。

# 熊本県で発生した高病原性鳥インフルエンザへの本県の対応

福岡県農林水産部畜産課

令和3年12月3日、熊本県南関町の養鶏場において高病原性鳥インフルエンザの疑似患者が確認されました。県境での本病の発生に伴い本県が行った防疫対応について、概要を報告します。

## 1 本県の防疫対応

### (1) 搬出制限区域の設定

12月3日、発生農場を中心とした半径3kmから10kmの範囲を搬出制限区域（大牟田市、みやま市、八女市の一部）に設定し、この区域の養鶏場（4戸、54,000羽）に対し、鶏や鶏卵の区域外への搬出を制限しました。

### (2) 消毒ポイントの設置

同日、午前4時から、みやま市役所高田支所（まいピア高田）駐車場に消毒ポイントを設置し、24時間体制で畜産関係車両の消毒を実施しました。



みやま市消毒ポイントでの車両消毒の様子

### (3) 養鶏場に対する指導

県内すべての養鶏場に対して、防鳥ネットの破損の有無の確認や、異常の早期通報など飼養衛生管理基準の遵守の徹底を指導しました。また、搬出制限区域内の農場

に対しては、制限区域が解除されるまでの間、飼養家さんに異常がないことを毎日確認しました。

### (4) 緊急消毒の実施

家畜伝染病予防法第9条の規定に基づき、県が県内全域の養鶏場（100羽以上飼養）に対し、12月7日から28日までの期間における消毒の実施を告示し、対象農場には消石灰を配布しました。

## 2 防疫対応の終了

熊本県が行った清浄性確認検査で陰性が確認されたため、12月21日午前0時に県内の搬出制限区域を解除し、消毒ポイントの運営を終了しました。

なお、熊本県の防疫対応は12月27日午前0時をもってすべて終了しました。

## 3 野鳥の監視について

12月3日、環境省により熊本県南関町の発生農場から半径10km圏内が野鳥監視重点区域に指定され、野鳥監視が強化されました。その後、当該区域内において野鳥の大量死等の異常は確認されず、令和4年1月2日24時に当該区域を解除しました。

## 4 最後に

本年度も全国の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生し、野鳥でも同ウイルスが多数検出されていることから、厳重な警戒が必要です。引き続き飼養衛生管理基準を遵守いただくとともに、農場で飼養している家さんに異常を認めた場合は、速やかに最寄りの家畜保健衛生所へ通報をお願いします。

# 令和3年度福岡県高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）防疫演習について

福岡県中央家畜保健衛生所

福岡県ではHPAIや豚熱などの特定家畜伝染病の発生に備えて、毎年、県域の実地防疫演習を実施しています。

今年度は、令和2年11月に本県で発生したHPAI対応を踏まえて、防疫演習を実施しましたので、内容を紹介します。

## 【概要】

- ・開催日：令和3年10月19日（火）
- ・場所：糸島市曾根体育館・グラウンド
- ・参加者：128名
- ・内容：先遣隊（防疫作業の準備を行う職員）による防疫テントの設置、消毒ポイントの設置・運営及び発生農場での防疫作業
- ・今回、防疫テント、消毒ポイントは実際に担当する先遣隊や消毒ポイント班員が設置と運営を行いました。

## 【内容】

### 1 初動防疫措置の準備

#### （1）防疫テントの設置

防疫テントは農場近隣に設置され、作業者が感染防護具（防護服、ゴーグル、マスクなど）を装着するとともに、作業中に休憩するためにも使用する施設です。今回は、カゴ台車で管理している資材を演習会場に4トントラックで運搬し、先遣隊が設置しました。なお、資材の運搬は県の協定団体である福岡県

トラック協会に依頼しました。



（防疫テント設置中）



（防疫テント完成）

#### （2）消毒ポイントの設置

消毒ポイントは、発生農場から病原体を拡散させないため、複数箇所設置します。特に、発生農場の近隣に設置する緊急消毒ポイントは、最優先で消毒ポイント班が設置します。今回は、家畜保健衛生所の公用車で必要資材を運搬し、設置するところから実施しました。設置後は、トラックを使用して車両をはじめ、運転手や運転席の消毒を行うとともに、車両消毒確認証の発行など一連の消毒ポイント運営手順を確認しました。



（カゴ台車で資材運搬）



（設置した消毒ポイント）



(車両消毒)

## 2 発生農場での防疫作業

### (1) 防疫テントへの作業員の受入

先遣隊が設置した防疫テントを使用して、作業員を受入れました。担当者が感染防護具の着用方法や農場での作業内容を説明し、農場に送り出しました。



(作業員の受入)



(感染防護具着用後、農場へ出発)

### (2) 模擬鶏の捕鳥及び殺処分

農場に到着した作業員は、農場担当者から作業内容の説明を受け、役割を分担されます。今回は、模擬鶏の捕鳥作業と殺処分作業を中心に実施しました。捕鳥担当はケージから模擬鶏を捕まえ、ペール缶に投入し、殺処分担当はペール缶に炭酸ガスを注入し、殺処分を

実施しました。



(模擬鶏を捕鳥し、ペール缶に投入)



(炭酸ガスによる模擬鶏の殺処分)

## 3 最後に

これまでの防疫演習では、防疫テントなどの施設を事前に準備して実施していました。昨年度のHPAI発生時には、情報が錯綜し、作業員や資材の管理や輸送が上手くいかず、現場が混乱しました。

今回の演習では、昨年度の対応の検証を踏まえ、防疫テントと農場間の通信を確保し、作業員の動員状況や作業進捗状況の共有に取り組みました。また、実際の発生時に先遣隊や消毒ポイント班を担当する職員が、防疫テントや消毒ポイントを演習内で設置したことに加えて、設置した防疫テントを利用して作業員の受入や消毒ポイント運営を行ったことで、より実践的な演習になりました。

県では各対策班が業務内容の検討を進めています。その検討内容の検証の場として、今後も防疫演習を実施し、防疫対応のレベルアップを図っていききたいと思います。

# 今シーズンの高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）発生状況

福岡県北部家畜保健衛生所

## 1 国内の発生状況

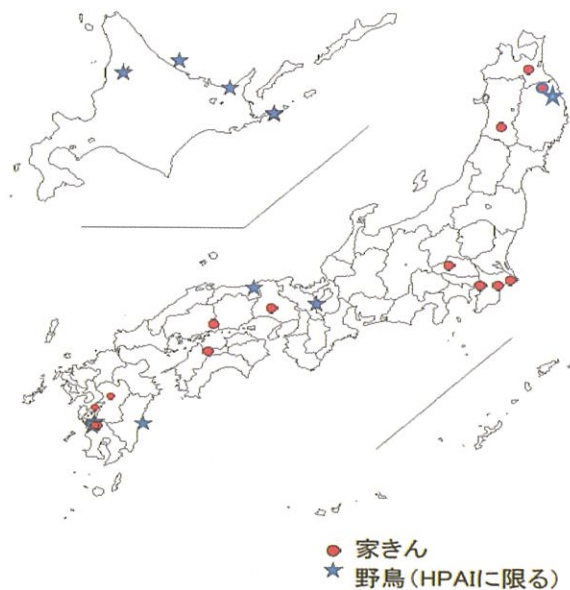
### (1) 昨シーズンの発生状況

昨シーズン（2020 冬－2021 春）は、11 月 5 日に香川県で発生して以降、本県の初発生を含め、全国各地で広範囲に発生し（18 県 52 事例）、75 農場 1 施設の家きん約 987 万羽が殺処分され、過去最大の甚大な被害をもたらしました。野鳥では、例年より早い時期から死亡個体や糞便等で HPAI ウイルスが検出され始め、18 道県で計 58 事例と多数検出されました。特徴として、自然環境に同ウイルスが多い状況となっており、特に水きん類が飛来するため池に近い養鶏場での発生が多い傾向がみられました。流行株は、いずれも H5N8 亜型によるものでした。

### (2) 今シーズンの発生状況

#### 1) 野鳥での検出状況

野鳥では、7 道府県で糞便や死亡個体等から 38 事例検出されています（2 月 25 日時点）。H5N1 亜型 14 事例、H5N8 亜型 7 事例、H5 亜型 17 事例となっています。野鳥から検出



された 7 道府県の内、家きん発生がみられたのは 2 県のみで、野鳥から検出されていない地域で発生してもおかしくない状況です。

#### 2) 家きんの発生状況

11 月 10 日に秋田県で発生して以降、10 県で 16 事例発生し、22 農場の家きん約 106 万羽が殺処分されています。昨シーズンより件数は少ないものの、北海道を除く全国各地で発生し、H5N1 亜型 14 事例、H5 N8 亜型 2 事例と野鳥と同様に 2 種類が流行しています。

通報時の臨床的な状況をまとめた結果では、死亡羽数の増加 11 件、鶏舎の 1 箇所にとまって死亡 6 件、沈うつ 5 件、チアノーゼ 3 件となっています。また、農場近くのため池や水田等にカモ類、ハクチョウやサギが多数確認されたのは 3 件のみでした。



チアノーゼ



まとめて死亡

## 2 韓国での発生状況

11月8日に忠清北道のうずら農場で発生して以降、5道1特別自治市で45件の発生が報告されています(2月22日時点)。野鳥では、10月26日にHPAIウイルスが検出されて以降、27地域27件で確認されています。主にH5N1亜型が流行しており、家きんの発生及び野鳥での検出状況は我が国と似た傾向にあります。

## 3 欧州での発生状況

9月中旬にロシア南東部の野鳥からHPAIウイルスが検出されたのを皮切りに、ウイルスが西方に移動していることが報告されており、欧州各地の家きんで発生が報告されています。H5N1亜型が流行しており、主な発生国と件数はイタリア308件、フランス203件、ハンガリー113件、ポーランド80件、ドイツ55件(2月8日時点)ですが、その発生は欧州全域にまたがっています。

## 4 今後も注意!

前述したように、今シーズンは昨シーズンより発生件数は少なくなっていますが、全国の広範囲で発生が確認されています。今一度、防鳥ネットの点検や衛生管理区域出入口での消毒徹底等、飼養衛生管理基準をチェックしていただき、発生予防に努めていただくようお願いいたします。

★HPAIの最新情報は、農林水産省ウェブサイトをチェックしましょう!



### 韓国の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況 (2021年10月以降)

2022年2月22日時点  
農林水産省動物衛生課

出典: 韓国農林畜産食品部  
※日付は発生日または検体採取日(韓国当局情報に基づく)  
※1: 韓国当局が初発日を11.9から11.8に修正したことを受けて修正

京畿道			
2022.1.21	華城市	H5N1	鶏卵鶏
2022.1.21	華城市	H5N1	鶏卵鶏
2022.2.7	平沢市	H5N1	産卵鶏

忠清南道			
2021.12.3	天安市	H5N1	鶏卵鶏
2021.12.11	天安市	H5N1	鶏卵鶏
2021.12.14	牙山市	H5N1	鶏卵鶏
2022.1.23	天安市	H5N1	鶏卵鶏
2022.1.30	礼山郡	H5N1	産卵鶏
2022.2.2	天安市	H5N1	鶏卵鶏
2022.2.3	天安市	H5N1	鶏卵
2022.2.6	保寧市	H5N1	鶏卵
2022.2.8	礼山郡	H5N1	ウズラ
2022.2.9	牙山市	H5N1	産卵鶏
2022.2.12	唐津市	H5N1	産卵鶏
2022.2.12	禮山市	H5N1	肉用アヒル

全羅北道			
2021.12.27	扶安郡	H5N1	種アヒル
2022.1.6	井邑市	H5N1	種アヒル
2022.1.25	扶安郡	H5N1	肉用アヒル
2022.1.29	金堤市	H5N1	種アヒル
2022.2.4	扶安郡	H5N1	種鶏
2022.2.5	井邑市	H5N1	肉用アヒル
2022.2.7	井邑市	H5N1	ブロイラー

全羅南道			
2021.11.11	麗州市	H5N1	肉用アヒル
2021.11.16	麗州市	H5N1	種アヒル
2021.11.17	麗州市	H5N1	肉用アヒル
2021.11.22	麗州市	H5N1	肉用アヒル
2021.12.5	麗州市	H5N1	産卵鶏
2021.12.11	務安郡	H5N1	肉用アヒル
2021.12.15	麗州市	H5N1	種アヒル
2021.12.20	麗州市	H5N1	ブロイラー
2021.12.29	務安郡	H5N1	肉用アヒル
2022.1.14	麗州市	H5N1	肉用アヒル



家きんでの発生: 45件		
内訳	肉用アヒル	14件
	種アヒル	8件
	産卵鶏	14件
	ブロイラー	4件
	種鶏	1件
	地鶏	2件
	ウズラ	2件

忠清北道			
2021.11.8 <sup>※1</sup>	陰城郡	H5N1	ウズラ
2021.11.9	陰城郡	H5N1	肉用アヒル
2021.11.14	陰城郡	H5N1	肉用アヒル
2021.11.19	陰城郡	H5N1	ブロイラー
2022.1.21	羅川郡	H5N1	種アヒル
2022.2.1	羅川郡	H5N1	肉用アヒル
2022.2.7	羅川郡	H5N1	肉用アヒル
2022.2.8	羅川郡	H5N1	種アヒル
2022.2.12	羅川郡	H5N1	種アヒル
2022.2.12	羅川郡	H5N1	ブロイラー

世宗特別自治市		
2021.12.16	H5N1	産卵鶏
2021.12.23	H5N1	産卵鶏

慶尚南道			
陽智邑 (ブクA B7.22)	河東郡	H5N1	肉用アヒル



# 令和3年度牛のアルボウイルス感染症血清サーベイランス結果

福岡県中央家畜保健衛生所

## はじめに

家畜保健衛生所(家保)では毎年、節足動物媒介性ウイルス(アルボウイルス)の流行状況を調べるため、牛のアルボウイルス感染症血清サーベイランス(発生予察事業)を実施しています。今年度から、イバラキ病と牛流行熱が調査対象疾病から除かれ、アカバネ病、チュウザン病及びアイノウイルス感染症が調査対象疾病になりました。これによる、今年度のアルボウイルス感染症血清サーベイランスの結果についてお知らせします。

## 1 アルボウイルスとサーベイランス

家畜のアルボウイルスによる病気は、牛、山羊・羊、馬、豚のいずれでも確認されていますが、最も被害を受けやすいのは牛です。

日本では牛流行熱や流行性異常産の原因として牛流行熱ウイルス、アカバネウイルス、アイノウイルス、チュウザンウイルス、イバラキウイルスなどが知られています。これらの経済被害は甚大で、ひとたび大流行すれば地域を越えて大きな損失をもたらすことから、家畜伝染病予防法で監視伝染病に指定されています。

これらのウイルスは、吸血性の節足動物(カやヌカカ)を介して初夏から秋にかけて感染が拡がっていくため、発生予察事業は前年の夏を越しておらず、かつ異常産関連のワクチンを接種していない子牛を対象として、6月下旬、8月中旬、9月下旬、11月中旬の年4回、ウイルスの流行調査を実施しています。

## 2 結果

今年度、福岡県内の発生予察事業では、アルボウイルスの流行は確認されませんでした。

九州・沖縄地方及び山口県におけるアルボウイルスの流行については、データが確認できている山口県、長崎県、佐賀県、熊本県、宮崎県、鹿児島県では流行が確認されていませんが、沖縄県では11月にアカバネ病とチュウザン病の流行が確認されました。

## 3 ワクチンについて

現在、アルボウイルスによる牛の疾病の多くはワクチンが開発されており、適切にワクチン接種を行うことにより発生を防ぐことができます。これまで、アルボウイルスによる牛の異常産は数年周期で発生する 경우가多く、大規模な流行が確認されると危機意識が高まり、ワクチン接種率が向上しますが、時間が経つにつれて接種率が低下していく傾向があります。今後も大流行に耐えられるように、毎年定期的にアルボウイルスに対する牛異常産3・4種混合ワクチンや牛流行熱・イバラキ病混合ワクチンなど積極的に接種することで大事な牛を病気から守ることが重要です。

## 4 調査対象疾病の変更について

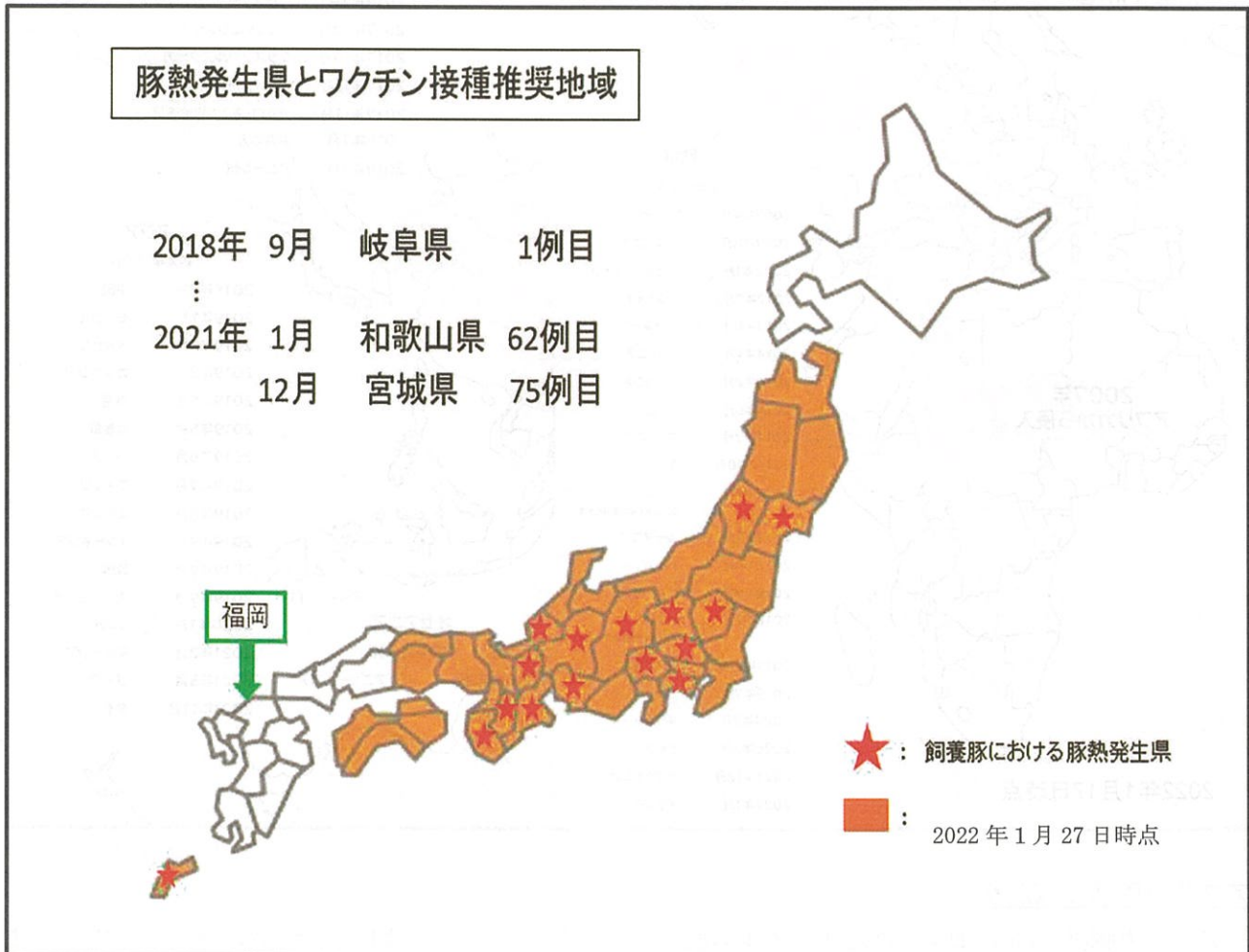
調査対象疾病からイバラキ病と牛流行熱が除外された背景には、潜伏期間が短く、抗体陽転よりも早く、症状による摘発が可能であることがあげられています。今後も、発熱等の臨床症状を呈した場合は、早期発見・早期通報を宜しくお願い致します。

## おわりに

本サーベイランスを実施するにあたって、子牛の採血へご協力いただいた牛飼養者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

## 豚熱及びアフリカ豚熱の発生状況

福岡県両筑家畜保健衛生所



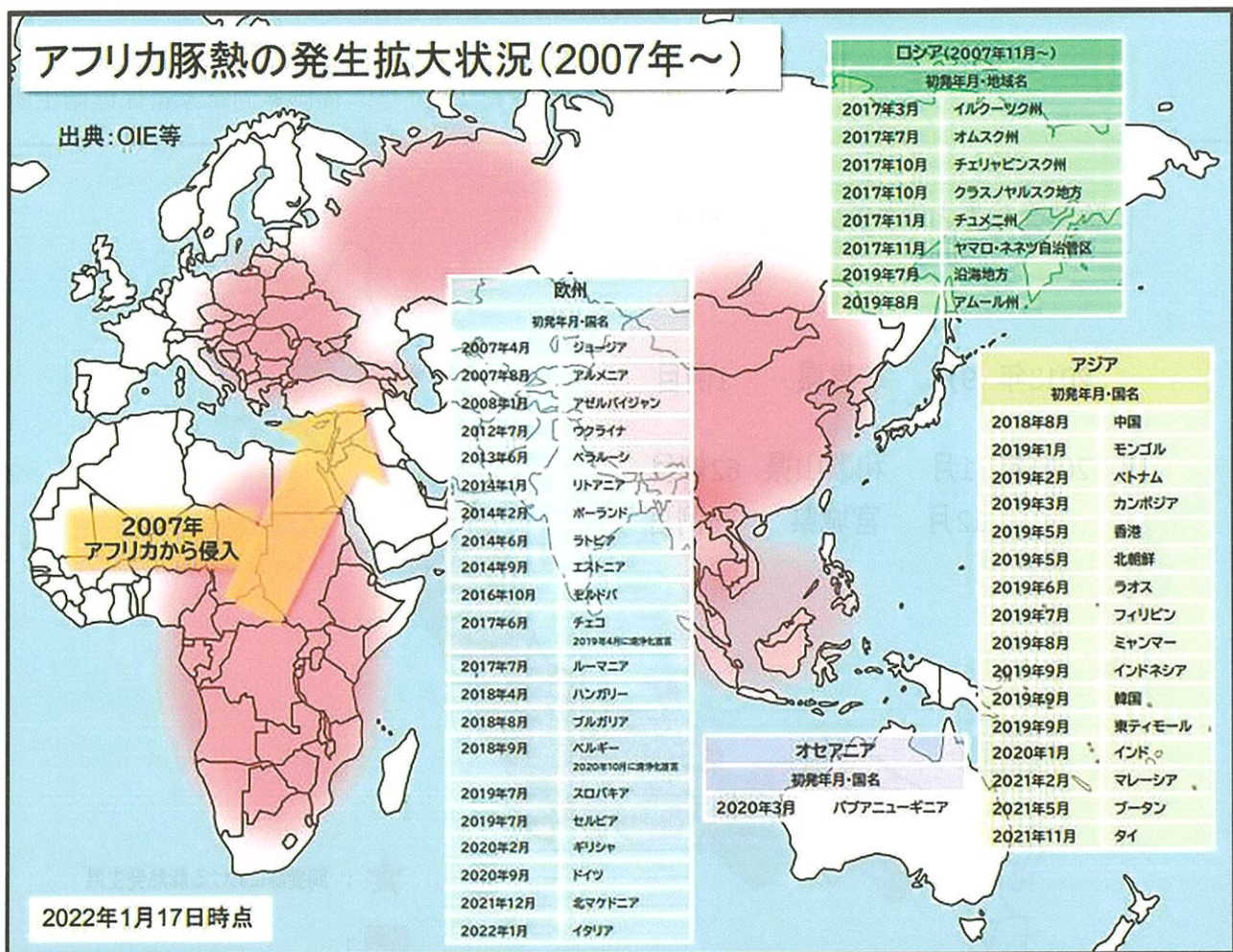
### 豚熱とワクチン接種推奨地域の広がり

豚熱は、2018年に26年ぶりに岐阜県の養豚場で発生し、2021年12月までに75事例が確認されました。

上図のとおり本州において、西は和歌山県、東は宮城県まで発生事例が確認され、感染が広がっている状況です。

豚熱対策として、飼養豚へのワクチン接種が実施されていますが、無計画かつ無秩序なワクチンの使用は、感染豚の存在を分かりにくくし、早

期発見や清浄性確認の際に支障を来たすおそれがあります。そのため、農林水産省は野生いのししにおける豚熱感染状況等を踏まえ、飼養衛生管理の徹底を図ってもなお、豚熱の感染の防止が困難な地域のみをワクチン接種推奨地域として定め、ワクチンの接種を認めています。このワクチン接種推奨地域は上図のとおり九州、北海道や本州の一部の県を除き、全国的に広がっています。



農林水産省 HP より

### アフリカ豚熱の広がり

アフリカ豚熱 (ASF) は豚の致死性ウイルス感染症で、飼養豚の死亡率はほぼ 100%に達し、豚熱とは異なる病気です。ASF は 1909 年にケニアで初めて確認されて以来、アフリカ大陸では現在まで散発的に発生が起こっています。

現在、世界的に流行している ASF は 2007 年、ジョージアで発生が始まり、原因はアフリカから輸入された肉製品であると考えられています。その後、欧州、ロシア、アジアへと発生が広がり、2018 年には世界最大の養豚産業を有し、世界の豚の約半数を飼育する中国で発生が確認されました。そして 2021 年までには、韓国、インド、タイに広がっています。現在、東アジアにおいて発生が確認

されていないのは日本、台湾のみとなっています。

特に福岡県は、発生が確認された韓国と地理的に近く、またアジアとの交易を盛んに行っているため、ASF が発生する可能性は高いと考えられます。

豚飼養者の方は、農場内にウイルスを持ち込まないための飼養衛生管理の向上をお願いいたします。

本稿の豚熱及びアフリカ豚熱の発生状況は切り取り、飼養衛生管理マニュアルに綴じ込む等、従業員及び農場関係者への周知にご活用ください。

## 外国人従事者等を雇用している畜産農家における注意事項について

福岡県北部家畜保健衛生所

外国人従業員の母国から送られてくる国際郵便物の中に、輸入禁止の肉製品が入っている可能性はありますか？

日本では、海外から家畜の伝染性疾病が侵入することを防ぐため、口蹄疫、アフリカ豚熱、鳥インフルエンザ等の発生国（中国、ベトナム等アジア地域）からの肉製品等の畜産物の輸入は法律で禁止されており、個人消費用やお土産用であっても持ち込むことはできません。



(写真：国際郵便物に入っていた輸入禁止品の例)

国際郵便に限らず、海外からの肉製品の違法な持込みへの対応は、2019年4月22日から厳格化されています。海外からの荷物の中に肉製品があった場合、放棄するしないにかかわらず厳正に対処され、輸入申告のない肉製品が確認された場合は、罰則の対象になります。

2020年7月1日には家畜伝染病予防法の一部が改正されました。これにより、肉製品を違法に持ち込んだ場合に科せられる罰金の最高額が、100万円から300万円(法人の場合5000万円)に引き上げられました。実際に違法な肉製品の持込みにより逮捕された人もいます。

家畜の伝染性疾病の侵入を防ぐため、手荷物や郵便物内に肉製品が入っている疑いがある場合は、速やかに最寄りの動物検疫所までお知らせください。

また、外国人従業員の皆様には、国際郵便物を受け取り次第、その中に肉製品が入っていないか御確認いただくと共に、母国から肉製品を日本に送らないように改めて周知いただきますようお願いいたします。

(連絡先)

農林水産省 動物検疫所門司支所

TEL：093-321-1116 FAX：093-332-5858

同 福岡空港出張所

TEL：092-477-0080 FAX：092-477-7580

【お知らせ】

本トピックは、第121号で掲載したものを動物検疫所監修の元修正し再掲載しています。

### 第3回福岡県肉用種牛共進会の開催実績

公益社団法人 福岡県畜産協会

本共進会については、「福岡県家畜衛生だより 第121号」で紹介したところですが、予定通り令和3年11月13日(土)、福岡県農業大学校グラウンドにおいて開催されましたので、その実績を報告します。

当日は前日からの雨により会場のコンディションが悪く、早朝から整地等の準備にかなり苦労しました。その後、時間の経過とともに天候が回復し、出品牛の搬入、出品牛の測尺・予備審査、開会式を経て、審査、最後に表彰式・閉会式が行われ、無事終了しました。

出品頭数は若雌1区(12ヶ月齢～16ヶ月齢)が13頭、若雌2区(17ヶ月齢～20ヶ月齢)が7頭の計20頭で、審査は、公益社団法人全国和牛登録協会の山口総務課長を審査顧問にお迎えし、個体審査、次に比較審査が行われました。山口審査顧問の審査講評では、若雌1区は全体的に発育良好で、体積特に中軀と後軀が良好で、体の伸びに富み、体上線も強く平直であったことや、若雌2区は初産を間近に控えた牛もおり、共進会へ出品することが難しい月齢での出品区であるが、次世代を担う最先端の雌牛の姿を展示することは、福岡県の繁殖雌牛の能力向上にとって重要なことであると思われるので、継続して取り組みいただくことをお願いしたいとの助言もいただきました。

最優秀賞は以下のとおりです。

#### ○ 若雌1区



写真左から

最優秀賞1席「まんかいざくら」株式会社高手牧場

最優秀賞2席「くみ」大石昌史

最優秀賞3席「はなまんかい」株式会社高手牧場

上記以外の最優秀賞は

最優秀賞「まはらじゃねお」株式会社高手牧場

最優秀賞「さところ」株式会社木村牧場

最優秀賞「わゆり」松野竜大

#### ○ 若雌2区



写真左から

最優秀賞1席「ななひめ」田中亮一

最優秀賞2席「くるみ」株式会社木村牧場

最優秀賞3席「やえひめ3」有限会社三苦牧場

が選ばれました。(敬称略)

いよいよ、今年は鹿児島全共の本番です。繁殖雌牛の出品は本県からは初めてとなります。皆様方のご支援とご協力をお願いします。

「めざせ！ 鹿児島全共」

開催テーマ：「和牛新時代 地域かがやく和牛力」

## 令和3年度の福岡県家畜共済事業実績(1月末現在)

福岡県農業共済組合 家畜課

令和3年度福岡県家畜共済事業における  
1月末の概要についてお知らせします。

・加入状況

### 【死亡廃用共済】

搾乳牛 167戸(9,740頭)、育成乳牛 167戸  
(5,378頭)、繁殖用雌牛 84戸(2,239頭)、育成  
肥育牛 242戸(20,200頭)、豚 5戸(11,929頭)

### 【疾病傷害共済】

乳用牛 169戸(10,870頭)、肉用牛 223戸  
(9,431頭)、子牛の選択率 乳用牛(88%)、肉  
用牛(87%)

平均共済評価額は、牛の価格上昇が落ち着  
ついたこともあり、搾乳牛 62万円(8万円減)、  
育成乳牛 60万円(8万円減)、繁殖用雌牛 81  
万円(1万円減)と前年より下落しています。一  
方、育成肥育牛は 77万円(6万円増)と価格上  
昇が止まらない状況です。

・事故状況

### 【死廃事故】

夏の暑さが比較的穏やかであったことか  
ら、乳用牛の成牛・子牛ともに事故が減少し  
ています。しかし、肉用牛では牛伝染リンパ  
腫が増加していることもあり、成牛で事故が  
増加しています。

・乳用牛(成牛)

894頭 1億9,164万円(2,922万円減)

・乳用牛(子牛)

184頭 1,021万円(42万円減)

・肉用牛(成牛)

238頭 5,841万円(1,105万円増)

・肉用牛(子牛)

566頭 6,677万円(206万円減)

・肉豚

1,918頭 2,410万円(483万円増)

・合計

3,800頭(599頭増)、

3億5,115万円(1,583万円減)

### 【病傷事故】

乳用牛は、件数・共済金ともにやや減少し  
ていますが、肉用牛においては成牛で腸炎、  
子牛で肺炎が多発したことにより、件数・共  
済金ともに増加しています。

・乳用牛(成牛)

8,930件 1億4,801万円(197万円減)

・乳用牛(子牛)

488件 721万円(2万円増)

・肉用牛(成牛)

1,795件 1,823万円(225万円増)

・肉用牛(子牛)

1,736件 2,375万円(279万円増)

・合計

12,949件(236件増)

1億9,721万円(304万円増)

家畜共済は、農家の皆さんの貴重な財産の  
不慮の事故に備え、補償を行っています。ご  
興味のある方は、お近くの組合支所にお問い  
合わせください。

## 酪農情勢について

ふくおか県酪農業協同組合

昨年の全国の生乳生産状況は、クラスター事業等の生産基盤強化策による成果に加え、冷夏で乳牛へのダメージも少なかったことから増産基調が継続しております。この半面、コロナの影響を受けた飲用需要はインバウンド需要の喪失や業務用需要も回復しないこと等から低迷し、乳製品在庫は記録的な高水準となっております。年末から年始にかけては乳製品処理工場での処理能力を超える処理不可能乳の発生が危惧され、これを回避するため、生乳生産基盤を毀損しないことを前提とした取り組みとして、乳房炎牛の早期乾乳・治療等による一時的な生産出荷抑制を組合員の皆様にお願いたしました。乳製品の在庫対策については、輸入乳製品や飼料用との置き換え等が継続されておりますが、次年度に向けて更なる対策が必要で、全国の生産者と乳業者が連携して資金を拠出し在庫対策に取り組むことが検討されており、これを後押しする国への支援を酪政連等が要請してまいります。

令和3年度の福岡県内酪農家戸数は、1月末時点で177戸と昨年度より5戸減少しました。

### ・県内酪農家戸数（戸）

年度	30年度	R1年度	R2年度	R4.1末
戸数	199	190	182	177
前年比	97.1	95.5	95.8	97.3
差	▲6	▲9	▲8	▲5

### ・県内生乳受託乳量（トン） （前年度廃業者実績を含む）

年 度	30年度	R1年度	R2年度	R3見込
乳 量	75,561	74,064	72,256	72,425
前年比	99.7	98.0	97.6	100.2
差	▲211	▲1,497	▲1,808	+169

### ・県内経産牛頭数（頭）

年 度	30年度	R1年度	R2年度	R4.1末
経産牛	8,639	8,261	8,144	8,105
前年比	98.0	95.6	98.6	99.5
差	▲174	▲378	▲117	▲39

組合の生乳生産量は、酪農家戸数や飼養頭数の減少が続いておりますが、冷夏で乳牛へのダメージも少なかったこともあり年度末では若干の増加を見込める状況です。

飼料価格高騰等による生産費の上昇に加え副産物価格も下落しており、酪農を取り巻く状況は急激に悪化し厳しい経営環境となっております。このため、組合の経営支援緊急対策として、過去2カ年は2月に実施した支援対策を12月に前倒して実施しました。これからも、酪農生産基盤の維持強化を図れるよう努めてまいります。

## 令和3年度福岡県家畜保健衛生業績発表会について

福岡県農林水産部畜産課衛生係

県は、令和3年度福岡県家畜保健衛生業績発表会を、令和3年12月2日（木）に吉塚合同庁舎で開催しました。例年、家畜保健衛生所職員が日頃の業務を推進する中で得た成果や試験調査成績について発表しています。

また、特別講演では山口大学共同獣医学部獣医公衆衛生学研究室 教授 度会雅久先生

に「人獣共通感染症とワンヘルスについて」の演題で、研究プロジェクトの内容や「ワンヘルス」の考え方などについて、貴重なお話を聞かせていただきました。

本年度の発表演題は下記のとおりです。演題の詳細につきましては、発表者の所属する家畜保健衛生所へお問い合わせください。

	演 題	家保名	発 表 者
[ 第1部 ]			
1	牛の小型ピロプラズマ病の診断におけるPCRの有用性の検討	中央	井坂 紗英
2	ミルクフィルターを活用した搾乳衛生指導	筑後	日名子 健司
3	豚熱発生を想定した実践型リーダー育成の試み	北部	鈴木 萌美
④	高病原性鳥インフルエンザ発生時の短時間での敷料発酵消毒処理事例	中央	北山 渉
5	小規模養鶏農家への指導がスムーズに！直売所と連携した取り組み	両筑	畠中 大地
⑥	愛玩動物診療施設環境の薬剤耐性菌モニタリング調査 ～福岡県のワンヘルス推進に係る取り組みの一例～	中央	濱田 恭平
7	動物薬事業務のさらなる効率化を目指して	北部	内布 幸典
[ 第2部 ]			
⑧	肉用牛農場における肝蛭症の発生事例	北部	曾賀 晃
9	<i>Trueperella pyogenes</i> の関与が疑われる牛流産例	両筑	黒田 成孝
10	県内で初めて発生した高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 亜型)の病性鑑定成績と特徴	中央	因泥 優樹
11	採卵鶏の雛に発生した鶏アスペルギルス症	両筑	山本 訓敬
12	採卵鶏農場において2年連続して発生したロイコチトゾーン症	筑後	永野 由佳

○：九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会選出演題

なお、全国家畜保健衛生業績発表会への選出演題は、令和4年7月に開催される九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会で選出されます。



□蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等  
から家畜を守るために



## 毎月20日は 「ふくおか一斉消毒の日」

病原体の侵入、疾病のまん延を防止するには、県全体での防疫対策が重要です。

毎月20日は、定期的な消毒に加え、県内一斉消毒に取り組みましょう！

全ての畜産関係者のご理解とご協力をお願いします。

### 消毒、家畜の病気に関するお問合せ

中央家畜保健衛生所 TEL 092-633-2920

北部家畜保健衛生所 TEL 0948-42-0214

両筑家畜保健衛生所 TEL 0942-30-1037

筑後家畜保健衛生所 TEL 0942-53-2405

家畜の異状の早期発見・早期通報をお願いします。

【 福 岡 県 】

# 飼養衛生管理基準を遵守し 適正な衛生管理を！！



衛生情報・ご相談は

最寄りの家畜保健衛生所へ

福岡県農林水産部 畜産課	福岡市博多区東公園 7-7	TEL092-651-1111 (内線 3990)	FAX092-643-3517
中央家畜保健衛生所	福岡市東区箱崎ふ頭 4-14-5	TEL092-633-2920	FAX092-633-2851
北部家畜保健衛生所	嘉麻市大字漆生 587-8	TEL0948-42-0214	FAX0948-42-1376
両筑家畜保健衛生所	久留米市合川町 1642 番地の 1	TEL0942-30-1037~9	FAX0942-35-9198
筑後家畜保健衛生所	筑後市大字和泉 606-1	TEL0942-53-2405	FAX0942-53-2723